

第6回
鹿島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成28年5月16日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新高校設置準備委員会設置要領 1
資料 2	鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成 3
資料 3	鹿島地区新高校設置に向けた検討体制 4
資料 4	平成 27 年度検討結果及び平成 28 年度以降の検討スケジュール・ 生徒配置について 5
資料 5	生徒配置について 9
資料 6	教育課程・校時 15
資料 7	県立高校再編整備に伴う校名の検討について 16
	県立高校再編整備に伴う校歌・校章・制服等の検討について

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
 - 二 新高校の施設・設備に関すること
 - 三 新高校への円滑な移行に関すること
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補足)

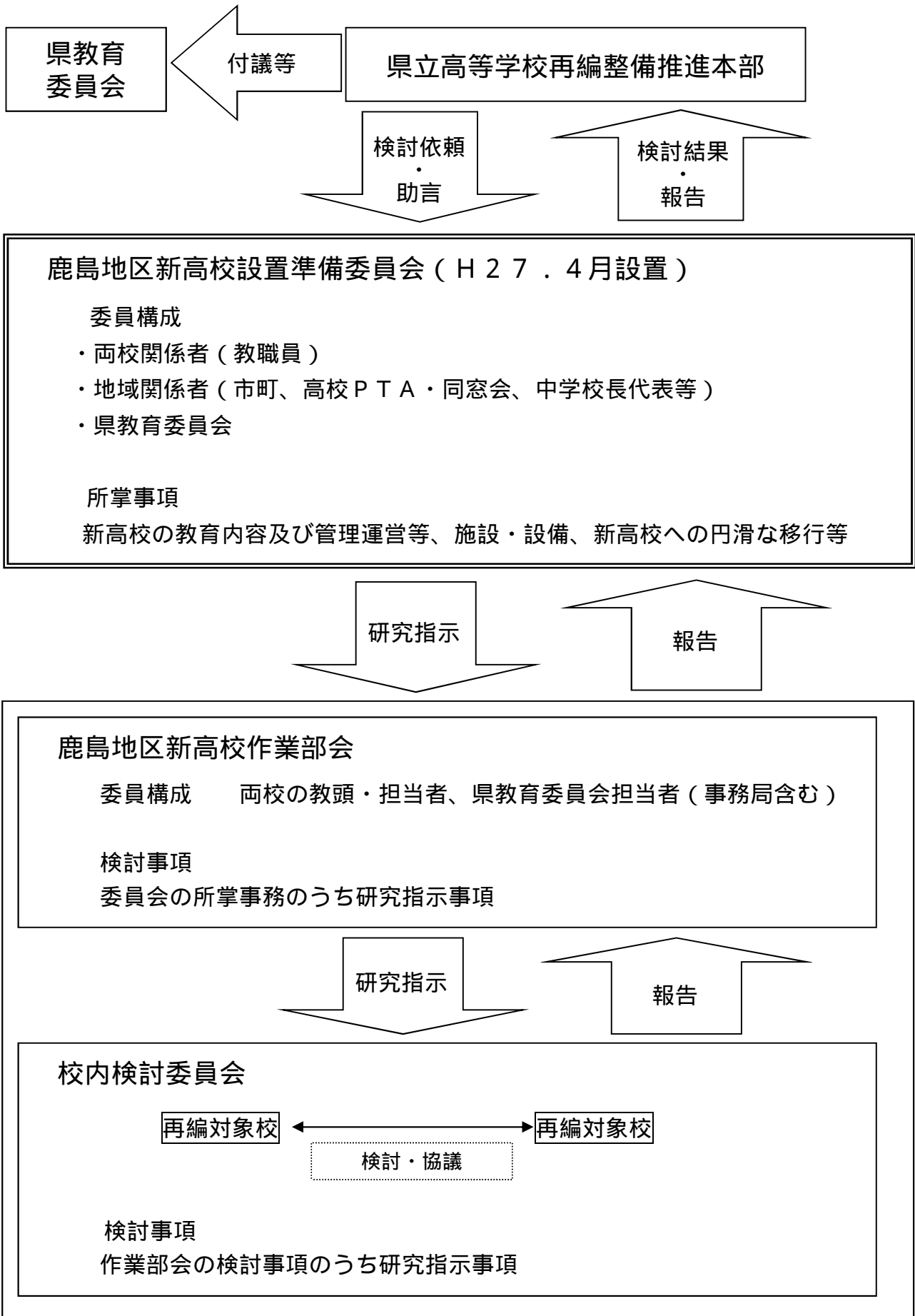
- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校

資料2 鹿島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	鹿島高等学校 校長	角 敬一郎	委員長・学校関係者			
2	鹿島実業高等学校 校長	林 嘉英	副委員長・学校関係者			
3	鹿島高等学校 教頭	碓 剛	学校関係者			
4	鹿島実業高等学校 教頭	中島 淳				
5	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市	市町関係者		
6	鹿島市総務部長	橋村 勉				
7	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市			
8	白石町教育長	北村 喜久次	白石町			
9	太良町教育長	松尾 雅晴	太良町			
10	鹿島高等学校 同窓会代表	矢野 善紀	地元関係者			
11	鹿島実業高等学校 同窓会代表	伊東 茂				
12	鹿島高等学校 PTA代表	岡田 和人				
13	鹿島実業高等学校 PTA代表	藤永 一男				
14	鹿島市立西部中学校長	白仁田 茂	中学校関係者			
15	鹿島市立東部中学校長	植松 正鋼				
16	教育総務課長	源五郎丸 靖	県教委関係者			
17	教育振興課長	五反田 進				
18	教育情報課長	碓 浩一				
19	教職員課長	福地 昌平				
20	学校教育課長	松尾 敏実				
21	保健体育課長	吉松 幸宏				
22	県立高校再編整備推進室長	原 和弘				
23	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	鹿島高等学校教諭	西岡 哲也			事務局	
	鹿島実業高等学校教諭	梶原 圭介				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹				
	県立高校再編整備推進室 企画主査	高山 裕樹				



平成 27 年度検討結果及び平成 28 年度以降の検討スケジュール

平成 27 年度の検討状況

1 目的

佐賀県教育委員会は、平成 26 年 12 月に「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第 1 次）」を策定し、鹿島高校及び鹿島実業高校の再編を決定した。

計画では、平成 30 年度に現在の鹿島高校の 1 学年 200 人（5 学級規模）及び鹿島実業高校の 1 学年 120 人（3 学級規模）を再編して、合わせて 280 人（7 学級規模）とし、学科については現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討することとした。また、地域の生徒数の減を勘案し、平成 31 年度又は 32 年度にさらに募集定員を 40 人（1 学級規模）減じることとした。

これを踏まえ、鹿島地区新高校の具体的な在り方等を検討するために、平成 27 年 4 月に鹿島高校、鹿島実業高校、両高校の高校同窓会・PTA、地元中学校、鹿島市、嬉野市、白石町、太良町の市町関係者や教育長及び佐賀県教育委員会の関係者からなる「鹿島地区新高校設置準備委員会」を立ち上げ、魅力ある新高校づくりを目指した検討を行ってきた。

2 「鹿島地区新高校設置準備委員会」での検討経過

平成 27 年度は、「鹿島地区新高校設置準備委員会」を 5 回開催し、鹿島地区の高校再編に向けて、めざす学校像、学科構成、校舎制、教育課程、校時等についての検討を行ってきた。

また、この委員会は公開とし、その都度、県のホームページ等を通じて、開催案内や協議事項概要等の報告を行い、県民への情報提供に努めた。

平成 27 年度の設置準備委員会開催日及び主な検討事項は、次のとおりである。

回	日付	主な検討項目
第 1 回	平成 27 年 6 月 1 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 委員委嘱 新実施計画の概要 新高校設置準備委員会検討スケジュール めざす学校像（意見聴取）
第 2 回	平成 27 年 7 月 27 日（月）	<ul style="list-style-type: none"> めざす学校像（事務局案検討） 学科の構成（説明） その他
第 3 回	平成 27 年 10 月 29 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> めざす学校像（事務局案再検討） 学科の構成（協議） 校舎制（説明） その他
第 4 回	平成 27 年 12 月 25 日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 学科の構成（協議） 校舎制（説明） 教育課程、校時（説明） その他
第 5 回	平成 28 年 3 月 23 日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 学科の構成（協議） 教育課程、校時（説明） 校務分掌、各種委員会（説明） 平成 27 年度の検討結果まとめ及び平成 28 年度以降の検討スケジュール その他

検討結果

1 めざす学校像

(1) 鹿島地区新高校「めざす学校像」

心身ともに逞しく生きる力を持ち
豊かな人間性と知性とを兼ね備えた
広く社会に貢献する人材を育てる学校

(2) その他

第2回設置準備委員会で出された、盛り込みたいフレーズやキーワード等は、教育目標や指導方針を策定する際の参考とする。

校訓、キャッチフレーズ等は別途検討する。(校内検討委員会)

2 新高校の学科・学級編成

- 現行：普通科5学級(200人)、
食品調理科1学級(40人)、商業科1学級(40人)、情報処理科1学級(40人)

平成30年度

○ 普通科	5 学級 (200人)
○ 食品調理科	1 学級 (40人)
○ 商業科	1 学級 (40人)
<hr/>	
計 7 学級 (280人)	



平成31年度(平成32年度)

○ 普通科	4 学級 (160人)
○ 食品調理科	1 学級 (40人)
○ 商業科	1 学級 (40人)
<hr/>	
計 6 学級 (240人)	

3 校舎制(鹿島地区の新高校の場所については「当面、校舎制」としている)

(1) 再編後の校舎(校地)の呼称

鹿島高校校舎 (仮称)「赤門学舎」
鹿島実業高校校舎 (仮称)「大手門学舎」

(2) 生徒の配置・移動(授業・部活動・行事等)

生徒の教室配置について

<第6回設置準備委員会で事務局案提示>

生徒の移動について

ア 基本方針

- ・ 両校舎の距離が極めて近いので、バス等の移動手段については考慮しない。
- ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。

- イ 学校行事等における移動
 - ・ 合同行事等の際は、生徒の移動時間を考慮したスケジュールを設定する。
 - ・ 屋内の合同行事は体育館で行うものが最も多いと想定される。
- ウ その他考慮すべきこと
 - ・ 行事等で移動する生徒用の下足箱の増設（体育館）
 - ・ 雨天時の移動（行事）（傘の準備をしてこなかった生徒用に、移動用の貸出傘を準備する）

(3) 職員の配置・移動（授業・部活動・行事等）

職員の配置について

- ア 基本方針
 - ・ 授業の担当クラスや時間割、学年を考慮して職員配置を行う。
- イ 校長の配置について
 - ・ どちらかに校舎を決めて常駐（校長不在の校舎には副校長を配置）
- ウ 校務分掌
 - < 試案を基に今後各校で検討 >

職員の移動について

- ア 基本方針
 - ・ 両校舎の距離が極めて近いため、原則自家用車・公用車での移動は行わない。
 - ・ 授業については生徒の校舎間移動は原則行わず、授業担当教員が移動する。
- イ 授業における移動
 - ・ 極力校舎間移動をしないような時間割を設定する。
 - ・ 移動が必要な授業は、特定の曜日や時間帯（午前・午後）に固める。

各種会議及び委員会等の開催形態（職員会議、学年会、教科会、各種委員会等）

< 今後各校で検討 >

両校舎間の連絡手段の整備

- ・ 両校舎間での内線（インターホン）の整備
- ・ 両校舎をカバーする放送設備の整備（鹿島校舎から鹿実校舎に放送を入れる等）
- ・ テレビ会議・中継システム（天候の状況により全校集会を各教室の電子黒板を利用して行う等）
- ・ 文書の受付、回議、回覧体制の構築

(4) 部活動

- ・ 再編後の部活動の設置について検討する（統合・新設等）
- ・ 部活動ごとに活動場所を設定する。
- ・ 生徒の部活動の移動は各自で行う。

(5) 合同行事（予定）

入学式（体育館）	卒業式（体育館）	始業式・終業式（体育館）
芸術鑑賞会（体育館・市民会館等）		体育祭（グラウンド）
文化祭（体育館・各校舎・各教室）		高校総体壮行会（体育館）
全校集会（体育館）	修学旅行	開校記念行事（体育館）
学年集会（体育館・武道場・講堂）		新入生合宿
牡丹餅会（体育館）		

平成 28 年度以降の検討課題及び検討スケジュール

1 平成 28 年度設置準備委員会スケジュール（案）

回	予定時期	主な検討項目（予定）
第 6 回	平成 28 年 4 ~ 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程・校時 ・ 施設設備の整備 ・ 校名・校章・校歌・制服等検討方針
第 7 回	平成 28 年 6 ~ 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務分掌・各種委員会等 ・ 進路指導・生徒指導（含生徒会活動・部活動） ・ 作業部会の検討状況報告
第 8 回	平成 28 年 8 ~ 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選抜方法 ・ 学校行事 ・ 作業部会の検討状況報告
第 9 回	平成 28 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）の検討

2 全般的スケジュール

年度	予定時期	主な検討項目
平成 28 年度	H28 年 10 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画（原案）...第 9 回設置準備委員会で検討
	H28 年 12 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画（案）
	H29 年 2 月	2 月議会（「校名」に関する条例改正案）
	H29 年 3 月	鹿島地区新高校再編整備実施計画策定
平成 29 年度	H29 年 4 月 ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動、施設・設備の整備 ・ 「佐賀県立学校の課程等に関する規則」「佐賀県立高等学校の通学区域に関する規則」の一部改正（再編室）
	H29 年 7 月	教育課程申請（学校教育課報告）
平成 30 年度	H30 年 4 月	鹿島地区新高校 開校

3 検討課題及びスケジュール

	検討課題・項目	検討時期	主体となる検討会議
1	教育課程・コース設定素案	~ H28 年 4 月	校内検討委員会
2	（校訓・キャッチフレーズ等）	~ H28 年 10 月	校内検討委員会
3	（校名・校章・校歌・制服）	~ H28 年 10 月	（検討方針を第 6 回で検討）
4	広報計画	~ H29 年 3 月	作業部会

それぞれの検討結果及び進捗状況については、平成 28 年度の設置準備委員会において逐次報告することとする。

教育課程については、配置教員数の算定資料となるため、H28 年度初頭頃までに素案を作成し、その後継続検討とする。

生徒配置について

1 生徒配置パターン

(1)【案】: 学科別配置

現状の鹿島高校、鹿島実業高校の生徒配置を踏襲

配置例（新高校完成年度）

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	商業科	全学年	3学級	120人	18室
	食品調理科	全学年	3学級	120人	
赤門	普通科	全学年	12学級	480人	15室

年次進行（H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合）

年度	校地	学年（学科）	必要教室数
平成 30	大手門	1年（商業、食品）2年（商業、情報、食品）3年（商業、情報、食品）	8（2,3,3）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	15（5,5,5）
平成 31	大手門	1年（商業、食品）2年（商業、食品）3年（商業、情報、食品）	7（2,2,3）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	14（4,5,5）
平成 32	大手門	1年（商業、食品）2年（商業、食品）3年（商業、食品）	6（2,2,2）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	13（4,4,5）
平成 33	大手門	1年（商業、食品）2年（商業、食品）3年（商業、食品）	6（2,2,2）
	赤門	1年（普通）2年（普通）3年（普通）	12（4,4,4）

利点

- ・ それぞれの学科の現状の指導体制を大きく変える必要がない
- ・ 同じ学科の他学年の生徒と一緒にいることで学ぶことも多い
- ・ 職員の移動が最小限で済む
- ・ 時間割を組みやすい
- ・ 施設・設備の追加整備が不要（現状の施設・設備の利用が可能）
- ・ それぞれの校舎で異なる教育課程や校時でも運用可能

課題

- ・ 新高校としての一体感が醸成しにくい
- ・ 新高校としてのアピール効果が弱い
- ・ 大手門学舎に配置される生徒数が少なくなり（H32年度で6学級）活気が無くなる

(2)【案】: 学年別配置

1年次は全て大手門学舎に配置。2年次以降普通科、商業科は赤門学舎に配置

配置例（新高校完成年度）

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	普通科	1 学年	4 学級	160 人	18 室
	商業科	1 学年	1 学級	40 人	
	食品調理科	全学年	3 学級	120 人	
赤門	普通科	2, 3 学年	8 学級	320 人	15 室
	商業科	2, 3 学年	2 学級	80 人	

年次進行（H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合）

年度	校地	学年（学科）	必要教室数
平成 30	大手門	1 年（全） 2 年（商業、情報、食品） 3 年（商業、情報、食品）	13（7,3,3）
	赤門	2 年（普通） 3 年（普通）	10（5,5）
平成 31	大手門	1 年（全） 2 年（食品） 3 年（商業、情報、食品）	10（6,1,3）
	赤門	2 年（普通、商業） 3 年（普通）	11（6,5）
平成 32	大手門	1 年（全） 2 年（食品） 3 年（食品）	8（6,1,1）
	赤門	2 年（普通、商業） 3 年（普通、商業）	11（5,6）
平成 33	大手門	1 年（全） 2 年（食品） 3 年（食品）	8（6,1,1）
	赤門	2 年（普通、商業） 3 年（普通、商業）	10（5,5）

利点

- ・ 1年次に同じ校舎で過ごすことで、学校としての一体感が醸成される
- ・ 大手門学舎にもそれなりの数の生徒が配置されるため、スケールメリットを得やすい
- ・ 新高校としてのアピール効果がある

課題

- ・ 赤門学舎の方に商業実践室（300 m²程度）等の大規模な施設・設備の追加整備が必要となる
- ・ 普通科、商業科の教員で、校舎間移動が必要になる教員が多くなる可能性がある
- ・ それぞれの校舎に複数の学科の生徒が混在するため、学校運営上、教育課程（総単位数）や校時を全ての学科で揃える方が望ましい
- ・ 時間割を組みにくい

(3)【案】: 学年別配置

1年次は全て大手門学舎に配置、2年次以降普通科のみ赤門学舎に配置

配置例(新高校完成年度)

校舎	学科	学年	学級数	生徒数	普通教室数
大手門	普通科	1学年	4学級	160人	18室
	商業科	全学年	3学級	120人	
	食品調理科	全学年	3学級	120人	
赤門	普通科	2,3学年	8学級	320人	15室

年次進行(H30 情報処理科減 H31 普通科減の場合)

年度	校地	学年(学科)	必要教室数
平成30	大手門	1年(全) 2年(商業、情報、食品) 3年(商業、情報、食品)	13(7,3,3)
	赤門	2年(普通) 3年(普通)	10(5,5)
平成31	大手門	1年(全) 2年(商業、食品) 3年(商業、情報、食品)	11(6,2,3)
	赤門	2年(普通) 3年(普通)	10(5,5)
平成32	大手門	1年(全) 2年(商業、食品) 3年(商業、食品)	10(6,2,2)
	赤門	2年(普通) 3年(普通)	9(4,5)
平成33	大手門	1年(全) 2年(商業、食品) 3年(商業、食品)	10(6,2,2)
	赤門	2年(普通) 3年(普通)	8(4,4)

利点

- ・ 1年次に同じ校舎で過ごすことで、学校としての一体感が醸成される
- ・ 学科別配置と比較して、大手門学舎はより多くの生徒が配置されるため、スケールメリットを得やすい
- ・ 施設・設備の追加整備が不要(現状の施設・設備の利用が可能)
- ・ 授業は普通科の教員の移動のみで運用可能

課題

- ・ 大手門学舎の食品調理科に関する特別教室の稼働キャパシティがオーバーする可能性がある
- ・ 大手門学舎に複数の学科の生徒が混在するため、学校運営上、教育課程(総単位数)や校時を全ての学科で揃える方が望ましい
- ・ 普通科のみの配置で、配置される生徒数が減少する赤門学舎の生徒にとっては、学校の一体感を醸成するという点でのメリットは見えない

2 利点と課題 まとめ

案 では施設設備の整備面でコストがかからず、授業の運用に関しても時間割や教員の移動等の負担は最も少なくなると想定される。ただし、実質的に現状の2校体制と変わらないため、ひとつの高校としての一体感や、新しい高校に生まれ変わったというようなアピール効果は弱く、周囲から現状の2つの高校が単に生徒減により縮小しただけと捉えられる可能性がある。

案 については、他学科と同じ校舎で学ぶ期間が多くなることで、案 や案 と比較して、一つの高校としての一体感は醸成されやすい。ただし、現状で赤門学舎（鹿島）側には商業科の実習に使用できる教室はないため、商業実践室等への大規模な施設・設備の改修が必要となる。また、移行期には大手門学舎（鹿実）側にも商業科の生徒が残るため、両校舎に商業科の実習に使用する教室を置いておく必要があり、施設設備面の整備という面では無駄が多い。

なお、商業科の実習に使用する教室に改修する赤門学舎の教室については、1年生が大手門学舎側に移動することにより、芸術関係の教室（音楽室、美術室、書道室）または食品科室（被服実習室、調理実習室）などを改修することが考えられるが、将来の統合を見据えた上での改修も必要となるかもしれない。

案 は、施設設備の改修の必要がなく、また1年生は全て同じ校舎に入るため、学校の一体感も醸成できるなど、案 と案 の折衷的な案であり、案 と案 のデメリットを回避することができるように見えるが、赤門学舎側から1年生が大手門学舎に抜けただけの形であり、普通科の生徒のみの配置となる赤門学舎側の生徒にとっては、学校の一体感を醸成するという点でのメリットは見えない。

3 新高校の生徒配置（事務局案）

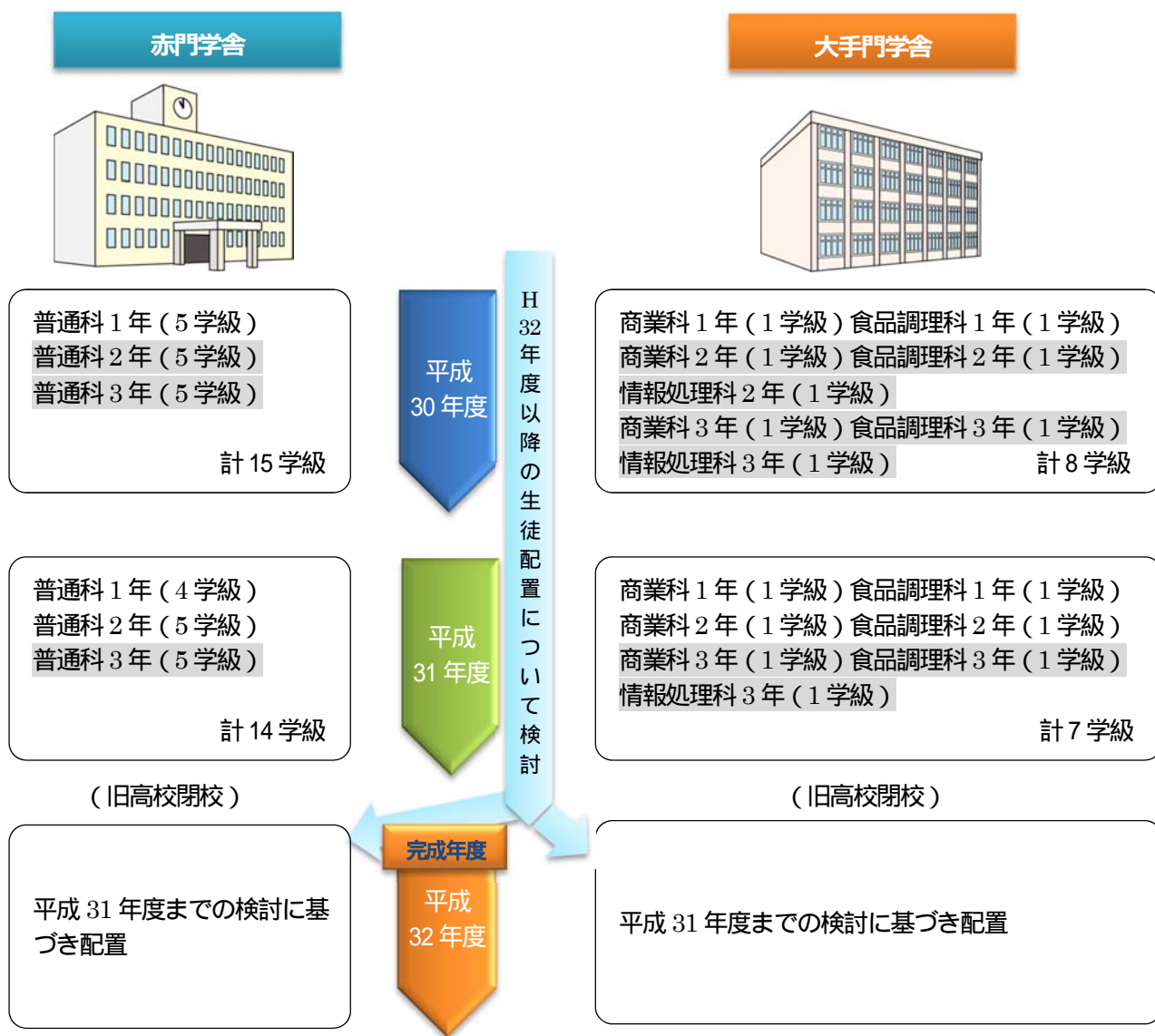
【案】：学科別配置

現状の鹿島高校、鹿島実業高校の生徒配置を踏襲
 （但し、完成年度となる H32 年度以降の生徒配置については今後も継続して検討する）

- ・「新高校としての一体感」については、式典や学校行事、日常的な部活動等を工夫・充実させることにより醸成をはかる。
- ・「新高校としてのアピール」については、制服や校歌の変更等によっても可能（さらに両校の実績をこれまで以上に上げることができれば、十分なアピールとなる）

【生徒配置イメージ】

（網掛けは旧高校籍の生徒。平成 31 年度に 2 回目の学級減を想定）



参考資料

各校舎の教室・特別教室等

教室種別	鹿島高校校舎(〈仮〉赤門学舎)				鹿島実業高校校舎(〈仮〉大手門学舎)			
	室名	室数	面積	階	室名	室数	面積	階
普通教室	普通教室	5	65	1	普通教室	5	65	1
	普通教室	5	65	2	普通教室	5	65	2
	普通教室	5	65	3	普通教室	5	65	3
					普通教室(食品調理科)	1	86	1
					普通教室(食品調理科)	1	86	2
					普通教室(食品調理科)	1	86	3
芸術	音楽室	1	102	3	音楽室	1	131	5
	美術室	1	123	3	美術室	1	117	4
	書道室	1	102	3	書写室	1	94	4
地歴公民	地歴・公民教室	1	102	3				
家庭科	家庭経営保育実習室	1	62	2	一般調理実習室	1	139	1
	被服実習室	1	151	2	専門調理実習室	1	154	1
	調理実習室	1	183	2	総合調理実習室	1	80	1
					食物準備室	1	35	1
					家庭経営保育実習室	1	84	1
					第一被服室	1	173	4
					第二被服室	1	157	4
理科	物理室	1	108	3	第一理科室	1	130	2
	生物室	1	108	4	第二理科室	1	121	2
	化学室	1	108	4				
商業科					商事実習室	1	92	3
					プログラミング実習室	1	94	3
					ワープロ実習室	1	144	3
					電算機室	1	47	3
					端末室	1	166	3
					CAI室	1	110	4
					簿記実習室	1	94	5
				商業実践室	1	299	4	
その他	視聴覚室	1	160	4	視聴覚室	1	117	5
	多目的室	1	62	2	中講義室	1	80	2
	学習室	1	82	3	福祉介護実習室	1	104	3
	準備室→多目的室	1	62	3				
	CAI教室→多目的室	1	108	3				

鹿島高校の普通教室は、現在行われている改築工事後の数

教育課程・校時

1 校舎制における生徒配置を踏まえた教育課程・校時設定の基本的考え方

(1) 単位数及び校時

A案： 全学科35単位7限授業で、校時を揃える。

B案： 普通科35単位7限授業、専門学科30単位6限授業で、校時を揃える。

C案： 普通科35単位7限授業、専門学科30単位6限授業で、校時を揃えない。

D案： 普通科・食調科35単位7限授業、商業科30単位6限授業で、校時を揃える。

E案： 普通科・商業科35単位7限授業、食調科30単位6限授業で、校時を揃える。

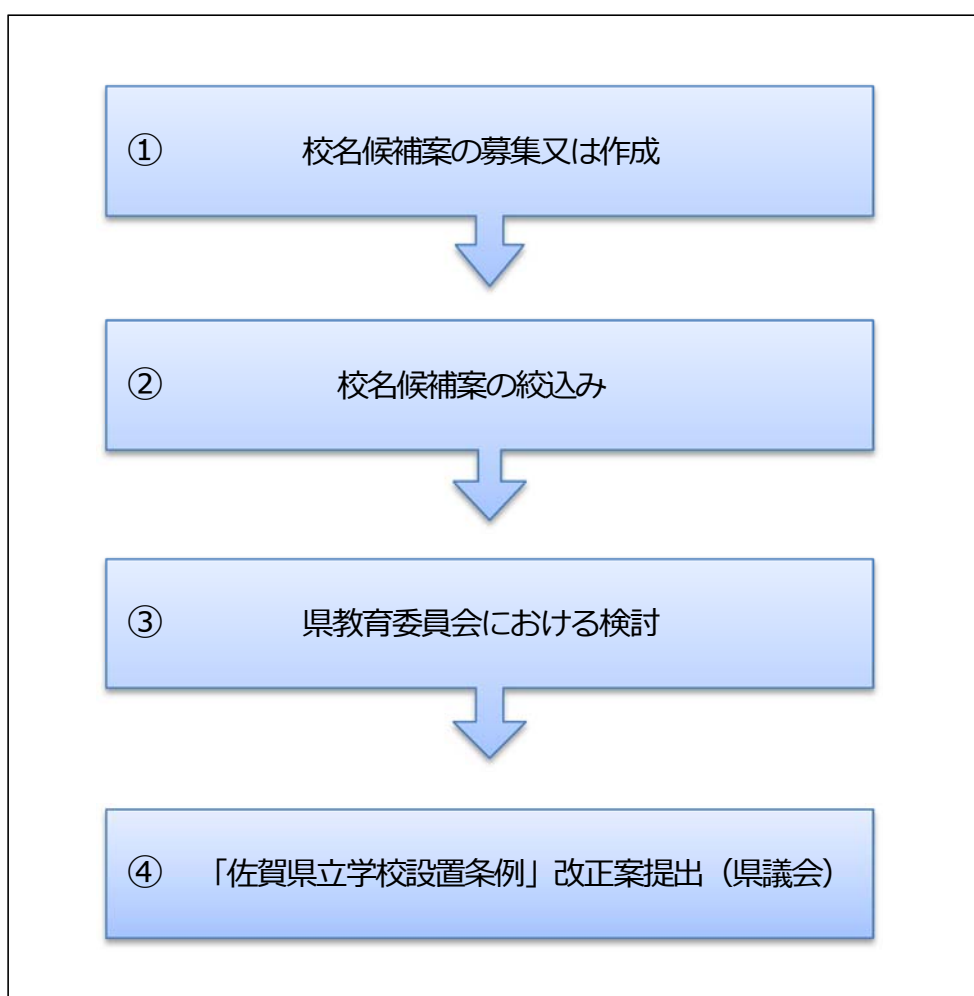
F案： 普通科35単位7限授業、専門学科33単位(6限・7限)校時を揃える。

案	単位数			校時	備考
	普通科	食調科	商業科		
A案	35単位(7限)	35単位(7限)	35単位(7限)	全学科揃える	
B案	35単位(7限)	30単位(6限)	30単位(6限)	全学科揃える	終業時間ズレ
C案	35単位(7限)	30単位(6限)	30単位(6限)	普通科、専門科別	案の場合のみ
D案	35単位(7限)	35単位(7限)	30単位(6限)	全学科揃える	終業時間ズレ
E案	35単位(7限)	30単位(6限)	35単位(7限)	全学科揃える	終業時間ズレ
F案	35単位(7限)	33単位	33単位	全学科揃える	終業時間一部ズレ

教育課程・校時については、新高校の生徒配置(案)に基づき、校内検討委員会及び作業部会で検討し、第7回設置準備委員会で方針(案)及び教育課程・校時(案)を提示することとしたい。

I 県立高校再編整備に伴う校名の検討について

1 校名制定までの流れ（概略）



2 過去の県立学校校名変更事例

	開校年度	学校名	校名変更の理由
1	H8	神埼清明高校	学科改編（農業科 総合学科）
2	H14	多久高校	学科改編（工業科 総合学科）
3	H15	致遠館中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
4	H17	唐津青翔高校	高校再編（唐津北高校・東松浦高校の統合）
5	H18	唐津東中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
6	H19	香楠中学校	中高一貫の導入（県立中学校の開校）
7	H19	武雄高校・武雄青陵中学校	高校再編、中高一貫の導入（県立中学校の開校）
8	H19	うれしの特別支援学校	特別支援学校の新設

（１）神埼清明高校 <平成 8 年：(旧) 神埼農業高校>

校名候補案	当該校職員より募集（H7.5.29～6.10 26 案の応募）
校名候補の絞り込み	プロジェクト委員会（校内） 10 案に絞り込み（H7.6.20） 校内全職員での検討 5～6 案に絞り込み（H7.6.22） 当該校より県教委へ校名案の要望書提出（H7.9.5）
県教委における検討	教育庁内新校名案検討（H7.10.18） 校名候補についての協議（2～3 案に絞り込み） 知事、副知事、総務部長に説明 11 月定例教育委員会（H7.11.20）
条例改正案提出	11 月県議会

（２）唐津青翔高校 <平成 17 年：(旧) 唐津北高校、東松浦高校>

校名候補案	公募（H16.4.5～4.23 509 通の応募）
校名候補の絞り込み	校名候補検討会 16 案に絞り込み（H16.5.6） （構成：関係市町首長・教育長、地元中学校校長・PTA 会長、再編対象校校長及び職員代表、教育企画室長） 検討委員に地元関係者 4 名を加え、アンケート調査を実施 有識者への意見聴取 6 案に絞り込み
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議（H16.5.14） 校名候補についての協議（3 案に絞り込み） H16.5.26 5 月定例教育委員会（H16.5.27）
条例改正案提出	6 月県議会

(3) 唐津東中学校 <平成 18 年：県立中学校開校>

校名候補案	<u>唐津東高校職員から募集</u> (H17.5.11 56 案の応募)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名候補検討会 15 案に絞り込み (H17.6.7) (構成：唐津市学校教育課長、地元小中学校校長・PTA 会長、唐津東高同窓会長・振興会長、唐津東高校長、教育企画室長) 職員、生徒へのアンケート調査を実施(H17.6.13) 第 2 回校名候補検討会 5 案に絞り込み (H17.6.21) 有識者への意見聴取
県教委における検討	県立高校再編整備推進本部会議 (H17.7.29) 校名候補についての協議 (5 案の検討) 8 月定例教育委員会勉強会(H17.8.10) 校名候補案 3 案を選定 唐津東中学校で了解(H17.8.10) 9 月定例教育委員会(H17.9.5)
条例改正案提出	9 月県議会

(4) 武雄高校・武雄青陵中学校 <平成 19 年：(旧)武雄高校、武雄青陵高校>

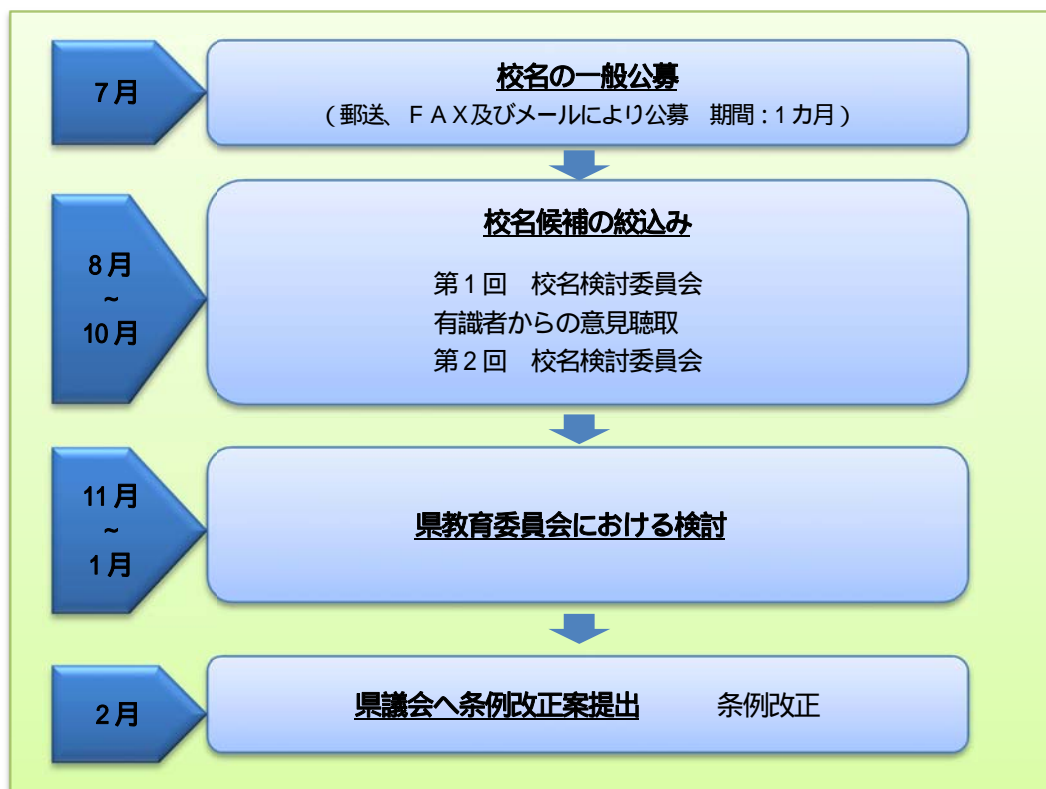
校名候補案	<u>武雄高校・武雄青陵高校職員から募集</u> (H18.2~3 25 案の応募)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名候補検討会 25 案の説明・意見聴取(H18.3.28) (構成：武雄市教育長、地元小中学校校長・PTA 会長、武雄高及び武雄青陵高同窓会長・振興会長、武雄高及び武雄青陵高校長、教育企画室長) 有識者への意見聴取 第 2 回校名候補検討会 14 案に絞り込み (H18.4.14) 武雄市長訪問 意見聴取(H18.5.11,5.19)
県教委における検討	8 月定例教育委員会勉強会(H18.5.24) 武雄高校、武雄青陵中学校で了解 武雄高校、武雄青陵中学校で了解(H18.6.2) 6 月定例教育委員会(H18.6.12)
条例改正案提出	6 月県議会

(5) うれしの特別支援学校 <平成 19 年：新設>

校名候補案	<u>県教委担当課において素案作成</u> (H18.5~6 32 案)
校名候補の絞り込み	第 1 回校名検討委員会 12 件の候補案提案 (H18.7.5) (構成：嬉野市教育長、地元企業代表、地元小中学校校長・他養護学校の保護者代表及び校長、教育企画室長) 有識者への意見聴取 4 件の候補案提案(H18.7.18,19) 第 2 回校名検討委員会 意見交換 (H18.8.9) 第 3 回校名検討委員会 11 案に絞り込み(H18.8.17)
県教委における検討	教育委員への意見聴取(H18.8.22) うれしの特別支援学校で了解(H18.8.23) 9 月定例教育委員会(H18.9.6)
条例改正案提出	9 月県議会

3 検討方法（案）

【A案】 校名候補案の一般公募の場合



【B案】 当該校の職員（校内校名検討委員会等）による原案作成の場合



<校名候補案の公募又は作成事例>

(1) 公募

唐津青翔高校の場合

平成 17 年 4 月開校の上場地区新高等学校の校名を広く県民から募集することにより、学校及びその教育内容等を県民や地域の皆様に周知するとともに、新しく生まれる高校が、県民や地域の人々から愛され親しまれることを目的として、校名の公募を実施した。

- ア 実施主体： 上場地区新高校整備推進委員会
- イ 募集期間： 平成 16 年 4 月 5 日（月）～平成 16 年 4 月 23 日（金）
- ウ 募集方法： 新高校の校名案を募集（郵送、FAX 及びメールによる）
- エ 応募総数： 509 通

(2) 当該校の職員（校内校名検討委員会等）による作成

武雄高校・武雄青陵中学校の場合

武雄高校及び武雄青陵高校、両校の教職員より、校内校名検討委員会を設置し、25 件の校名候補案（素案）を作成

唐津東中学校の場合

唐津東高校の教職員により、校内校名検討委員会（校長など 10 名）を設置し、50 件の校名候補案（素案）を作成

香楠中学校の場合

校内校名検討委員会において、18 件の校名候補案（素案）を作成

うれしの特別支援学校の場合

県教委担当課（教育企画室、学校教育課特別支援教育担当）において、32 件の校名候補案（素案）を作成

4 校名検討（校名案の公募又は作成及び検討）における基本的な考え方（案）

目指す学校像や、学校の歴史的あるいは地理的背景などを考慮した名称とする。
比較的平易に読み、親しみやすい名称とする。
県内外の学校と紛らわしくない名称とする。

5 検討組織

校名検討委員会委員構成（案）

No	委員構成（案）
1	関係校校長（2人）
2	関係市町教育長
3	市町関係者
4	関係校同窓会代表（2人）
5	関係校PTA代表（2人）
6	地元中学校校長
7	県教育委員会代表

県教委の各課室からの委員を除けば、現在行っている新高校設置準備委員会と校名検討委員会の委員構成はほぼ同じであるため、現在の設置準備委員会をベースに、県教委からは代表2名のみでの参加（県立高校再編整備推進室長、同教育企画監）とし、校名検討委員会は新高校設置準備委員会と併せて実施することが考えられる。

【参考】新高校設置準備委員会委員構成

No	委員構成
1	関係校校長（2人）
2	関係校教頭（2人）
3	関係市町教育長（1～4人）
4	市町関係者（1～2人）
5	関係校同窓会代表（2人）
6	関係校PTA代表（2人）
7	地元中学校校長（1～2人）
8	県教委各課室（8人）

校名検討委員会の構成としては、再編対象校の校長及び職員、同窓会関係やPTA関係、また、該当市町の首長や教育長、さらには地元中学校の校長等が考えられ、これに教育庁の関係課を加え、様々な視点から協議を重ねるとともに、有識者及び地元関係者への意見聴取を行うことによって、候補を絞り込んでいく必要がある。

最終的には、校名検討委員会のそれまでの検討結果を踏まえ、教育委員会で校名を決定し、県議会において条例を改正する。（平成29年2月議会を予定）

参考資料1

(1) 校名検討委員会(校名候補検討会)委員構成(過去の例)

唐津青翔高校(7人)

No	委員職名	備考
1	鎮西町長	地域代表(地元首長)
2	呼子町教育長	地域代表(地元教育長)
3	有浦中学校校長	地域代表(地元中学校長代表)
4	切木中学校PTA会長	地域代表(地元中学校保護者代表)
5	唐津北高校校長	関係校代表(学校長)
6	東松浦高校校長	関係校代表(学校長)
7	教育企画室長	県教育委員会代表

唐津東中学校(9人)

No	委員職名	備考
1	唐津市学校教育課課長	市教育委員会
2	外町小学校PTA代表	小学校PTA代表
3	西唐津中学校PTA代表	中学校PTA代表(女性)
4	浜崎小学校校長	小学校長代表(女性)
5	鏡中学校校長	中学校長代表
6	唐津東高校同窓会長	唐津東高校同窓会代表
7	唐津東高校振興会長	唐津東高校保護者代表
8	唐津東高校校長	関係校校長
9	教育企画室長	県教育委員会代表

武雄高校・武雄青陵中学校(12人)

No	委員職名	備考
1	武雄市教育長	地域代表(地元教育長)
2	嬉野中学校校長	地元中学校長代表
3	北方小学校校長	地元小学校長代表
4	有田中学校PTA会長	地元中学校PTA代表
5	武雄小学校育友会会長	地元小学校PTA代表
6	武雄高校同窓会長	関係校同窓会代表
7	武雄青陵高校同窓会長	関係校同窓会代表
8	武雄高校PTA会長	関係校PTA代表
9	武雄青陵高校PTA会長	関係校PTA代表
10	武雄高等学校校長	関係校学校長
11	武雄青陵高等学校校長	関係校学校長
12	教育企画室長	県教育委員会代表

うれしの特別支援学校（8人）

No	委員職名	備考
1	嬉野市教育長	地域代表（地元教育長）
2	東部中学校校長	地元中学校長
3	有明中学校校長	地元中学校長
3	御船が丘小学校校長	地元小学校長代表
4	金立養護学校保護者代表	養護学校 PTA 代表
5	伊万里養護学校保護者代表	養護学校 PTA 代表
6	金立養護学校校長	養護学校学校長
7	伊万里養護学校校長	養護学校学校長
8	教育企画室長	県教育委員会代表

（2）校内校名検討委員会委員構成（過去の例）

武雄高校・武雄青陵中学校

委員	
武雄高校校長	武雄青陵高校校長
武雄高校教頭	武雄青陵高校教頭
武雄高校事務長	武雄青陵高校事務長
武雄高校教務主任	武雄青陵高校教務主任
武雄高校開校準備担当者	武雄青陵高校開校準備担当者
武雄高校国語科教諭	武雄青陵高校国語科教諭
武雄高校社会科教諭	武雄青陵高校社会科教諭

唐津東中学校

委員
唐津東高校校長
唐津東高校教頭
唐津東高校事務長
唐津東高校教務主任
唐津東高校中高一貫教育推進担当
同窓会代表（1人）

（3）有識者への意見聴取（過去の例）

唐津青翔高校（4人）

久留米大学客員教授、元唐津北高校校長、元唐津市立図書館長、元呼子町教育長

武雄高校・武雄青陵中学校（6人）

元武雄市教育長、元武雄市教育委委員、東洋館社長、郷土史家、手塚商店代表、大村屋別館代表

香楠中学校（4人）

元中央大学学長、作家・脚本家、郷土史家、郷土史家

参考資料2

佐賀県立高等学校 校名一覧

番号	学校名	校名由来	番号	学校名	校名由来
1	鳥栖	所在地名	19	唐津南	所在地名＋方角
2	三養基	所在地名	20	伊万里農林	所在地名＋専門校種名
3	神埼	所在地名	21	佐賀農業	所在地名＋専門校種名
4	佐賀東	所在地名＋方角	22	鳥栖工業	所在地名＋専門校種名
5	佐賀西	所在地名＋方角	23	佐賀工業	所在地名＋専門校種名
6	佐賀北	所在地名＋方角	24	唐津工業	所在地名＋専門校種名
7	致遠館	※1	25	有田工業	所在地名＋専門校種名
8	小城	所在地名	26	塩田工業	所在地名＋専門校種名
9	唐津東	所在地名＋方角	27	鳥栖商業	所在地名＋専門校種名
10	唐津西	所在地名＋方角	28	佐賀商業	所在地名＋専門校種名
11	厳木	所在地名	29	唐津商業	所在地名＋専門校種名
12	伊万里	所在地名	30	伊万里商業	所在地名＋専門校種名
13	武雄	所在地名	31	杵島商業	所在地名＋専門校種名
14	白石	所在地名	32	鹿島実業	所在地名＋専門校種名
15	鹿島	所在地名	33	神埼清明	※3
16	太良	所在地名	34	多久	※4
17	牛津	所在地名	35	唐津青翔	※5
18	高志館	※2	36	嬉野	※6

※ 過去の県立高校の校名選定の理由等

番号	学校名	旧校名	校名変更の理由	校名選定の理由
※1	致遠館	—	新設	①佐賀藩校「致遠館」にちなむ。(校名一般公募) ②「志を遠大にする」、「遠方の人々を導く」、「遠くへ行く」等を意味する。
※2	高志館	佐賀農芸	学科改編(農業科と国際交流科の併置)	①校訓「高志潔心」よりとる。 ②高い志を持って学び、活躍してほしいという期待を込める。 ③世界に通用する人材を育成する。
※3	神埼清明	神埼農業	学科改編(総合学科の設置)	①総合学科で学ぶ生徒の清新さをイメージすることができ、新たな校風を醸成する。 ②校歌の一節「清明すでに仰ぐ」より引用。 ③「清明節」の語感から若さと希望を表している。
※4	多久	多久工業	学科改編(総合学科の設置)	①伝統を踏まえ、新たな校風の樹立をはかる。 ②歴史と文化を誇る学究の里「多久」の地名を残す。 ③全国に「多久」の校名は無く、地域に存在する唯一の高校。
※5	唐津青翔	東松浦 唐津北	高校再編(東松浦と唐津北の統合)	①「唐津」を付けることで、唐津地区の学校であることを明確にする。 ②「青」は玄界灘の海を表し、「翔」は未来に羽ばたく若者のイメージを表す。
※6	嬉野	嬉野商業	学科改編(総合学科の設置)	①開校当時の校名をそのまま生かし、原点復帰して新鮮なイメージを与える。 ②地域存在する唯一の学校であること。 ③全国に「嬉野」の校名が無い。

参考資料3 近年の他県における校名検討状況

(1) 和歌山県立伊都中央高等学校

新高校名	和歌山県立伊都中央高等学校（多部制）
学校設置年	平成 27 年 4 月開校（新設）
校名案の作成	公募（期間：H26.1.26～H26.2.14 延長 H26.2.28 応募件数：153 件） 【校名案公募の観点】 平成 27 年度、伊都地方に、生徒一人一人の「夢が実現できる」、従来の概念にとらわれない、全く新しいタイプの学校を開校します。 生徒に大きな希望を与えるこの学校にふさわしい、そして地域の方々から愛される校名をつけてください。
校名候補の絞込み	県教育委員会（H26.6 6 月県議会に条例改正案提出）
校名選定の理由	伊都地方のほぼ中央に位置する学校であること。 生徒一人一人の「夢が実現できる」、従来の概念にとらわれない、新しいタイプの学校であり、地域の学びの中心であること。 「学校教育」、「社会教育」を融合した、「生涯学習」の場として、世代を超えて多様な人が集い、そして、「鍛え合い」、「支え合い」、「学び合う」、地域におけるセンター的な役割の学校であること。

(2) 茨城県立常陸大宮高等学校

新高校名	茨城県立常陸大宮高等学校（全日制）
学校設置年	平成 22 年 4 月開校（2 つの県立高校の再編統合）
校名案の作成	常陸大宮地区新校準備委員会（1）で校名候補案を作成 （1 委員長に常陸大宮高等学校長、副委員長に山方商業高等学校長をあて、委員 16 名を構成員とする県教育庁で設置した組織）
校名候補の絞込み	常陸大宮地区新高等学校校名検討会議（2）で校名候補案を検討。 教育長に提出 （2 委員長に常陸大宮市長をあて 委員 14 名を構成員とする県教育庁で設置した組織） その後、知事と県教育委員会で提出した校名案について協議
校名選定の理由	統合する両校とも常陸大宮市にあることから、地名である「常陸大宮」を校名とする。

(3) 千葉県立松戸向陽高等学校

新高校名	千葉県立松戸向陽高等学校（全日制）
学校設置年	平成 22 年 4 月開校（2 つの県立高校の再編統合）
校名案の作成	公募（期間：H21.6.1～7.31）
校名候補の絞込み	統合準備室による校名候補案の絞り込み 校名検討委員会による校名候補案の絞り込み 県教育委員会で最終案確定（H21.12）
校名選定の理由	太陽に向かって大輪の花を咲かせる向日葵（ひまわり）のように、常に周りに温かさをもたらすことのできる福祉マインドを持った生徒を育む学校になって欲しいとの願いを込め、位置を示す「松戸」の後ろに「向陽」とした。

(4) 長野県飯田 OIDE 長姫高等学校

新高校名	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校（全日制）
学校設置年	平成 25 年 4 月開校（2 つの県立高校の再編統合）
校名案の作成	新高校名の考え方についてパブリックコメント （期間：H23.2.25～3.25 応募件数：1566 件）
校名候補の絞込み	校名検討小委員会
校名選定の理由	統合する両校の所在地「飯田」に、飯田工業高校の建学の精神である「OIDE」（Originality（独創）、Imagination（想像）、Device（工夫）、Effort（努力））と飯田長姫高校の「長姫」を併記することで両校の伝統を継承する。 校名にアルファベットを採用することで、県内初の総合技術高校で学ぶ生徒が、あらゆる分野において国際化が進展する我が国にあって、グローバルな視点を持って今後の産業経済の発展に寄与できる人材に育ててほしいとの願いを込めて命名。

(5) 川口市立高等学校（埼玉県）

新高校名	川口市立高等学校（全日制）
学校設置年	平成 30 年 4 月開校（3 つの市立高校の再編統合）
校名案の作成	公募（期間：H27.8.1～9.11 応募件数：478 件） 【校名案公募の観点】 平成 30 年 4 月に開校を予定している新市立高等学校について、市民から誇りと憧れをもたれるような魅力ある学校とするため、「校名」および「校名の理由」の公募を実施。
校名候補の絞込み	新市立高校開設準備委員会（学識経験者、学校関係者等）で意見聴取 新市立高校開設検討委員会（市関係部局の部課長等）で校名案選定
校名選定の理由	市内で唯一の市立高等学校となり、後世まで残る校名である 伝統ある市立 3 校のこれまでの実績や成果を等しく継承できる校名である 川口の名を冠して、常にトップを目指す学校のイメージを持った校名である シンプルで親しみやすい校名である 県内、県外の人にもわかりやすい校名である

(6) 富士市立高等学校（静岡県）

新高校名	富士市立高等学校（全日制）
学校設置年	平成 23 年 4 月開校（富士市立吉原商業高等学校より改編）
校名案の作成	公募（期間：H22.7.20～9.18 応募件数：888 件 校名案） 【校名案公募の観点】 平成 30 年 4 月に開校を予定している新市立高等学校について、市民から誇りと憧れをもたれるような魅力ある学校とするため、「校名」および「校名の理由」の公募を実施
校名候補の絞込み	市立高校開設準備室で校名候補案を 20 件に絞り込む 開設準備企画委員会（校内検討組織）で 10 件に絞り込む 富士市立高校開設準備委員会で 3 案に絞り込み、教育委員会に提示 教育委員会の最終選考会で最終決定
校名選定の基準	新高校の基本理念に合致しているもの 応募票数が圧倒的に多いもの 地理的イメージが沸きやすいもの 読み易い、言い易い、親しみ易いもの 等

(7) 京都市立京都工学院高等学校

新高校名	京都市立京都工学院高等学校（全日制）
学校設置年	平成 28 年 4 月開校
校名案の作成	公募（期間：H26.12.15～H27.1.23 応募件数：725 件）
	<p>【校名案公募の観点】</p> <p>新校の教育理念（「ものづくり」「まちづくり」を通じた豊かな人間教育の実践等）を体現する校名。</p> <p>中学生や保護者，地域の方々をはじめ市民のみなさんに親しまれる京都らしさを持った校名。</p> <p>洛陽・伏見工業高校の歴史・伝統をさらに発展させ，我が国の「ものづくり」「まちづくり」教育の先端を担い，それらを力強く全国に発信する高校としてふさわしい校名。</p>
校名候補の絞込み	校名検討委員会（H27.4.3 新高校名の要望書を教育長に提出）
校名選定の理由	<p>世界に通じる都市名である「京都」を冠することで，伝統産業から最先端産業まで幅広い産業が集積しそれらの技術を融合した革新的技術を生み出す「ものづくり都市・京都」に位置する高校であることをわかりやすく，かつ広く発信できること。</p> <p>「工学」を入れることで，産業界や大学，地域との連携のもと，社会的課題の解決を実践する「プロジェクト工学」を核とした教育を通して，「工学」系人材の育成を目指すという新校の教育理念を体現できること。</p> <p>「院」という言葉には，ある目的の下に，人が集い，確固たる力を身につけるといふ意味があり，学んだ技術や知識をみんなで結集・協働して，社会貢献を目指していく新校の教育活動に繋がること。</p>

他県での校名決定の状況

【検討委員会の設置なし・公募なし】

事例A：はじめから県教育委員会事務局で校名案を決定 → 校名決定

事例B：関係者の話し合いで校名案を決定 → 校名決定

【検討委員会の設置なし・公募実施】

事例C：公募実施（中高生） → 県教育委員会事務局で絞り込む（複数）
 → 公募実施（一般） → 県教育委員会事務局で絞り込む（複数） → 校名決定

事例D：公募実施 → 学校関係者に意見を聴く → 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例E：公募実施 → 学校関係者のみで校名候補を絞り込む（一つ） → 校名決定

【検討委員会の設置あり・公募実施】

事例F：公募実施 → 学校関係者のみで校名候補を絞り込む（10案程度）
 → 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例G：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例H：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込む（複数）
 → 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（複数） → 校名決定

事例I：公募実施 → 検討委員会で校名候補を絞り込み（複数）
 → 児童・生徒アンケート → 検討委員会で校名候補を絞り込み（複数）
 → 県教育委員会事務局で校名候補を絞り込む（一つ） → 校名決定

(単位：校)

校名決定の方法		統合校した年度				合計			
		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度以降(予定)				
検討委員会の設置なし	公募なし	【事例A】	2			2	5	10	
		【事例B】		1		2			3
	公募実施	【事例C】		1			1		5
		【事例D】		1	2		3		
		【事例E】				1	1		
検討委員会の設置あり	公募実施	【事例F】	1				1	24	
		【事例G】	6	7	6	2	21		
		【事例H】			1		1		
		【事例I】			1		1		
合計			9	10	10	5		34	

近年の統合校の校名について

平成 28 年度以降 (予定) の統合 (一部)

事例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
G	滋賀県	彦根翔西館高校	彦根西高校、彦根翔陽高校	設置	実施
G	滋賀県	長浜北高校	長浜高校、長浜北高校	設置	実施
E	京都市	京都工学院高校	洛陽工業高校、伏見工業高校 ※新校地	なし	実施
B	香川県	観音寺総合高校	観音寺中央高校、三豊工業高校	なし	なし (関係者の話し合い)
B	香川県	小豆島中央高校	土庄高校、小豆島高校 ※新校地	なし	なし (関係者の話し合い)

平成 27 年 4 月統合

事例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
I	宮城県	登米総合産業高校	上沼高校、米山高校、米谷工業高校、登米高校 (商業科)	設置	実施
H	千葉県	大原高校	大原高校、岬高校、勝浦若潮高校	設置	実施
D	長野県	佐久平総合技術高校	北佐久農業高校、臼田高校、岩村田高校 (工業科) ※学科別に校地	なし	実施
D	長野県	須坂創成高校	須坂園芸高校、須坂商業高校	なし	実施
G	静岡県	浜松湖北高校	引佐高校、気賀高校、三ヶ日高校	設置	実施
G	熊本県	岱志高校	荒尾高校、南関高校	設置	実施
G	熊本県	牛深高校	牛深高校、河浦高校 (普通科)	設置	実施
G	熊本県	天草拓心高校	峯明高校、峯洋高校、河浦高校 (園芸科)	設置	実施
G	大分県	玖珠美山高校	玖珠農業高校、森高校	設置	実施
G	鹿児島県	串良商業高校	有明高校、串良商業高校	設置	実施

平成 26 年 4 月統合

事例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
B	秋田県	角館高校	角館高校、角館南高校	なし	なし (関係者の話し合い)
G	山形県	村山産業高校	村山農業高校、東根工業高校	設置	実施
G	福井県	坂井高校	春江工業高校、坂井農業高校	設置	実施
C	山梨県	都留興譲館高校	桂高校、谷村工業高校	なし	実施
D	長野県	飯山高校	飯山高校、飯山北高校	なし	なし (第1次統合の際に校名は決定済み。なお第1次統合時は公募実施)
G	静岡県	清流館高校	大井川高校、吉田高校	設置	実施
G	静岡県	天竜高校	春野高校、二俣高校、天竜林業高校	設置	実施
G	徳島県	つるぎ高校	貞光工業高校、美馬商業高校	設置	実施
G	大分県	佐伯豊南高校	佐伯鶴岡高校、佐伯豊南高校	設置	実施
G	鹿児島県	曾於高校	財部高校、末吉高校、岩川高校	設置	実施

平成 25 年 4 月統合

事例	都道府県	統合後の校名	統合対象校	委員会設置の有無	公募実施の有無
G	北海道	札幌英藍高校	札幌篠路高校、札幌拓北高校	設置	実施
F	秋田県	能代松陽高校	能代北高校、能代商業高校	設置	実施
A	埼玉県	豊岡高校	豊岡高校、入間高校	なし	なし (県教委としてはじめから決定)
G	埼玉県	ふじみ野高校	福岡高校、大井高校	設置	実施
G	埼玉県	幸手桜高校	幸手高校、幸手商業高校	設置	実施
A	埼玉県	本庄高校	本庄高校、本庄北高校	なし	なし (県教委としてはじめから決定)
G	福井県	若狭高校	若狭高校、小浜水産高校	設置	実施
G	山口県	美祢青嶺高校	青嶺高校、美祢高校	設置	実施
G	大分県	日出総合高校	日出陽谷高校、山香農業高校	設置	実施

※統合対象校の枠内のアンダーラインは、統合校の校地、波線はキャンパス校を示している。

※平成 28 年度以降 (予定) の統合 (一部) : 情報提供や情報収集した県・市立の全日制課程の統合

※平成 25~27 年 4 月統合

・対象 : 県立学校同士の全日制課程の統合

・参考 : 「公立高等学校の再編整備計画等に係る調査」平成 25 年 6 月実施 青森県教育委員会

「全国高等学校 新設・校名変更・募集停止・学科再編等情報」(株)さんぼう教育総合研究センター

Ⅱ 県立高校再編整備に伴う校歌・校章・制服等の検討について

(1) 検討の方法

過去のいくつかの事例を見ると、校章のデザインや校歌の作詞家・作曲家の選定等、各校で組織した校内の諸検討委員会に委ねられている部分が多い。

【参考】唐津青翔高校設置に係る諸検討の経緯

制服

制服検討委員会のメンバー

- ・ 東松高（校長、教頭、事務長他 11 名）
- ・ 唐北高（校長、教頭、事務長他 6 名）

制服の基本コンセプト

- ・ 新しく躍進を開始するのにふさわしい制服
- ・ 校名（唐津青翔）のイメージにふさわしい制服
- ・ 清潔感がある、活動的である、シンプルである等

制定までの経緯

- ・ H16.10.9～10.25 業者の試作品及びサンプル搬入
- ・ H16.10.9～11.5 アンケートの実施
（東松高・唐北高職員・生徒、東松高保護者、近隣中学校職員・生徒・保護者）
- ・ H16.11.1 制服検討委員会（1回目）：女子冬服の選考対象を選定
- ・ H16.11.2 制服検討委員会（2回目）：各種制服候補の絞り込み
- ・ H16.11.4 制服検討委員会（3回目）：さらなる絞り込み
- ・ H16.11.8 制服候補の展示 生徒・職員の意見を聞く
制服検討委員会（4回目）：最終候補案決定
- ・ H16.11.9 唐津制服組合と協議
- ・ H16.11.10 唐津制服組合と協議 決定

校章 … 美術担当教員が作成（1月上旬完成予定）

校歌（制定までの経緯）

- ・ H17.8.31 第1回校歌制定委員会（東松高）：作詞、作曲を依頼する人物の推薦を委員に依頼
- ・ H17.9.21 第2回校歌制定委員会（東松高）：作詞を脇山正大氏（東松高元教頭）に依頼決定
体調を崩されているため、佐藤友則氏を推薦
- ・ H17.10.22 第3回校歌制定委員会（東松高）：作詞を佐藤友則氏（清和高元教頭）に依頼決定
- ・ H17.11.9 第4回校歌制定委員会（東松高）：作曲を橋本正昭氏（佐賀大助教授）に依頼決定
- ・ H18.1.17 作詞完成
- ・ H18.3.25 作曲完成